農林水産省

「令和５年度食産業の戦略的海外展開支援委託事業（パラオ共和国）」

業務完了報告書

令和６年３月

（2024 年）

アイ・シー・ネット株式会社

目次

1. 案件の概要 1
(1) 案件名 1
(2) 背景・目的 1
(3) 事業内容及び実施期間 1
2. パラオの食肉処理・加工関係者の日本への招へい研修の概要 3
(1) 研修の目的 3
(2) 事前研修（インセプションレポートの作成） 3
(3) 研修先・視察先の選定 3
(4) 研修参加者（パラオ農業・漁業・環境省農務局畜産課より参加） 4
(5) 食肉処理・加工関係者 招へい研修スケジュール 4
(6) 研修の模様 5
(7) 研修の感想など 8
3. 「日パラオ農業協力の促進のためのタスクフォース」第 3 回会合の概要 9
(1) 「日パラオ農業協力の促進のためのタスクフォース」第 3 回会合の目的 9
(2) 農水産業関係機関への訪問等 9
(3) 招へい者 10
(4) 招へいスケジュール 11
(5) タスクフォース会合 11
(6) 鈴木憲和 農林水産副大臣への表敬の概要 13
(7) 視察の概要等 14

1. 案件の概要

(1) 案件名

令和５年度食産業の戦略的海外展開支援委託事業（パラオ共和国）

(2) 背景・目的

パラオ共和国（以下「パラオ」という。）は、日本（大阪）のほぼ真南に位置し、国土面積はほぼ屋久島と同様で、海洋性熱帯気候でリゾート地の観光立国であり、環境保全の配慮もなされている国である。他方、食料の８割以上を米国等からの輸入に頼っていることから、食料安全保障に懸念があるうえ、パラオ国民の栄養問題（肥満等の生活習慣病、野菜を摂取しない等）が大きな社会的問題になっている。現下の世界的な新型コロナウイルス感染拡大の状況下にあっては、パラオ国民の間に食料安全保障の確保のため国内農業を振興することの重要性が浸透しつつあり、野菜、畜産物等の生産に取り組む者・地域が増加する兆しが見られている。

パラオ側から農業協力についての要請を受け、農林水産省とパラオ農業・漁業・環境省は、令和３年５月に農業協力促進のための枠組み（タスクフォース）を立ち上げ、農業協力の優先分野として、「パラオにおける新鮮、高品質及び安全な野菜及び果実の安定供給」及び「畜産業の発展」について検討することとなった。

本委託事業において、農業分野では、令和２年度海外農業・貿易投資環境調査分析委託事業（パラオ共和国)の「資源循環型農業に立脚したパラオの食料安全保障強化に向けた課題の特定及び提言」に基づく実証調査を行っていくことを目的とすることとし、畜産分野については、令和３年度同委託事業等に基づき、パラオ側からも要望のある食肉処理・加工における加工流通部分での支援の一助となるための招へい研修を行う。これらの取組により、今後農林水産省としてパラオと官民一体となった二国間の事業展開（輸出促進を含む。）や農業協力が本格的に推進され、日パラオ両国間における農業分野での関係強化等につなげていくことを目的とする。

今年度は、上記目的の達成のため、アイ・シー・ネット株式会社が当該委託事業を受託し、農林水産省の側面サポートを行った。

(3) 事業内容及び実施期間

① パラオの食肉処理・加工関係者の日本への招へい研修

2023 年９月 11 日（月）から９月 15 日（金）の期間、パラオの食肉処理・加工関係者（農業・漁業・環境省農務局畜産課職員）を日本に招へいした。９月 11 日（月）から 13 日（水）に沖縄を訪問し、食肉処理・加工処理の現場を視察するとともに、各専門家と意見交換等を実施した。また、同 14 日（木）には東京にて、農林水産省を訪問し、幹部への表敬の他、畜産の担当課から日本の食肉をめぐる状況等について説明を受けるとともに、意見交換を行った。

② タスクフォース会合の開催

2024 年１月 15 日（月）から 18 日（木）の期間、スティーブン・ビクトル農業・漁業・環境大臣を含む、パラオ農業・漁業・環境省の関係者を日本に招へいした。日本での滞在期間中、「日パラオ農業協力の促進のためのタスクフォース」第３回会合を開催したほか、鈴木憲

和農林水産副大臣への表敬や、今後のパラオ農業の発展に資するため、農水産業関連の幅広い関係先を訪問し、専門家と闊達な意見交換を行った。

2. パラオの食肉処理・加工関係者の日本への招へい研修の概要

(1) 研修の目的

パラオにおける食肉処理技術（と体処理・カット技術等）・加工技術（ハム、ベーコン、ソーセージ等の製造）の向上に向け、パラオの食肉処理・加工関係者を日本に招へいし、これら技術について学ぶ機会を提供する。

(2) 事前研修（インセプションレポートの作成）（資料別添）

食肉処理・加工関係者の日本への招へい研修に当たって、参加者に当事者意識を持たせ、研修成果を客観的に評価できるよう、事前研修として当社サポートの下、参加者によるインセプションレポートを作成した。インセプションレポートの項目は以下の通り。

① パラオにおける食肉処理技術・加工技術の現状
② パラオにおける食肉処理技術・加工技術の将来ビジョン
③ 将来ビジョン達成のための方策
④ 今回の研修参加の目的、意気込み
⑤ 今回の研修の成果

①～④は、パラオ側研修参加者が当社のサポートを受けながら作成した。⑤は、研修終了後にパラオ側参加者が作成し、2024 年 1 月 17 日に開催された「日パラオ農業協力の促進のためのタスクフォース」第３回会合にて研修生が自ら発表した。

(3) 研修先・視察先の選定

① 沖縄県

研修地の選定に際しては、研修を今後のパラオ畜産業の発展に効果的に寄与されるよう、パラオにおける食肉処理技術の実情（パラオの豚と畜場は湯剥ぎ式であるが、日本で湯剥ぎ方式で行うのは沖縄県か鹿児島県の一部に限られる。）に見合い、日本統治時代からパラオと深い関係があり、友好関係の強化に関する覚書を結ぶなど緊密な関係を保っている沖縄県を研修地とした。研修施設の選定に際しては、沖縄県農林水産部畜産課によるサポートも得ながら、と畜場と食肉加工場及び、パラオ側より要望のあった食鳥処理施設を選定した。

視察先	概要
株式会社沖縄県食肉センター	昭和 46 年 10 月に農協系統の協同会社として設立された。近代的な設備を有し、沖縄県の食肉の流通拠点施設として畜産農家の経営安定と消費者へ食肉の安定供給と流通の合理化、沖縄県の畜産振興を推進している。また、豚の直営農場、預託農場を運営し、「あぐ～豚」の生産にも注力し、付加価値の高い畜産流通を目指している。
名護市食鳥処理施設	鶏の飼育から加工・販売までを一貫して行う沖縄食鶏加工(株)と(有)中央食品加工が食鳥処理部門を統合し、沖縄県食鳥処理協業組合として操業している。
沖縄ハム総合食品株式会社	養豚農家であった創業者が昭和 52 年に創業した。ハム・ソーセージの他、調理総菜・レトルト食品の製造を始め、農畜産物を使った琉球料理・沖縄料理の製造販売に取り組んでいる。

② 東京近郊

東京近郊の視察先として、工場見学の受入れやソーセージ作り体験教室を開催している鎌倉ハム富岡商会を選定した。同社はコンシューマ・贈答用の商品展開を行っており、大規模化せずに顧客対象を絞って製造を行う点など、パラオのニーズに合った加工品を検討していくうえで参考となる。

視察先	概要
株式会社鎌倉ハム富岡商会	英国人ウイリアム・カーチスによって鎌倉にハム、ベーコンの製造が広がった頃、創業者が駅弁の製造販売会社として大船軒を開業した。ハムサンドウィッチの販売をきっかけに、ハム製造部門を独立させ製造を開始した。伝統的な布巻ハムを製造し続けている。

(4) 研修参加者（パラオ農業・漁業・環境省農務局畜産課より参加）

1	Name/氏名	Mr. Rengulbai, Kashgar レングルバイ・カシュガル
	Position/役職	Chief, Division of Livestock 畜産課長
2	Name/氏名	Mr. Nagata, JB ナガタ・ジェイビー
	Position/役職	Livestock Officer, Division of Livestock 家畜担当官
3	Name/氏名	Mr. Abraham (Sugrad), Tyler アブラハム（スグラッド）・テイラー
	Position/役職	Livestock Officer, Division of Livestock 家畜担当官
4	Name/氏名	Mr. Vanoosterweyck (Olkeriil), Goran ヴァヌースターウェイック（オルケリル）・ゴラン
	Position/役職	Livestock Officer, Division of Livestock 家畜担当官
5	Name/氏名	Ms. Mimong (Eluil) , Shaina ミモング（エルイル）・シャイナ
	Position/役職	Livestock Specialist, Division of Livestock 畜産専門家

(5) 食肉処理・加工関係者 招へい研修スケジュール

日	時間	イベント
9月11日 （月）	02:05 05:05 07:20 10:10	コロール発着（UA158） グアム着 グアム発（UA151） 関西国際空港着
	13:30 15:40	関西国際空港発（ANA1737） 那覇空港着 那覇泊

9月12日 （火）	09:00 -11:30	株式会社沖縄県食肉センター訪問 ・センターの説明、と畜解体作業の流れや枝肉の格付、廃棄物・汚水処理等について ・と畜場の見学・食肉加工場の見学 ・質疑応答等
	14:30 -16:00	名護市食鳥処理施設訪問 ・処理場見学 ・施設の沿革、通常の作業の流れ等の説明 ・質疑応答等 那覇泊
9月13日 （水）	09:30 -10:00 10:15 -11:15	沖縄県農林水産部長表敬 畜産振興公社訪問 ・沖縄における豚肉生産、食肉処理、加工について講義 ・質疑応答等
	14:00 -15:00 18:10 20:35	沖縄ハム総合食品株式会社訪問 ・沖縄ハムの沿革について ・ハム、ソーセージ工場の見学 ・質疑応答等 那覇空港発（ANA474） 羽田空港着 東京泊
9月14日 （木）	9:30 -11:00	株式会社鎌倉ハム富岡商会視察 ・歴史資料館の説明、会社概要 ・布巻ロースハム製法の説明、試食、売店の見学 ・質疑応答等
	14:00 -15:30 16:00 21:00 22:20	農林水産省訪問 ・輸出・国際局審議官表敬 ・畜産担当から「畜産をめぐる状況」について講義等 ・今回の研修総括 ➢ 研修の成果、今後の課題 ➢ 需要に見合う食肉を提供することに必要な技術的要素についての提言について 在東京パラオ大使館訪問 羽田発（ANA099） 関西国際空港着 大阪泊
9月15日 （金）	11:05 16:00 18:55 20:00	関西国際空港発（UA150） グアム着 グアム発（UA193） コロール着

(6) 研修の模様

① 株式会社沖縄県食肉センターの訪問

担当者から食肉センターの概要説明を受けた後、湯剥ぎ式のと畜場において、と畜処理から食肉加工処理までの流れ、機材、作業ルートに至る衛生管理の取組、獣医師によると体検査の様子などを視察した。

集合写真

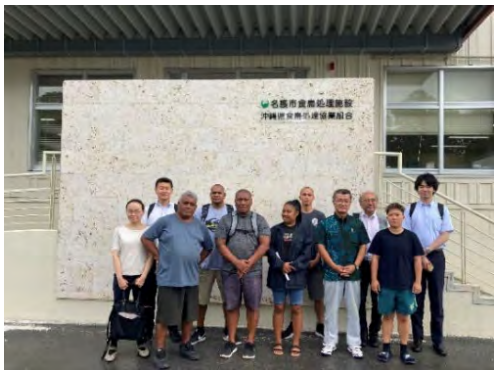
バーナーによる残毛処理

と畜検査後の枝肉処理

会社概要等の説明

② 名護市食鳥処理施設の訪問

訪問した午後の時間帯は作業が終了していたため、動画による食鳥処理の流れや施設内の衛生管理の説明を受け、ガラス越しに機械の洗浄の様子を視察した。

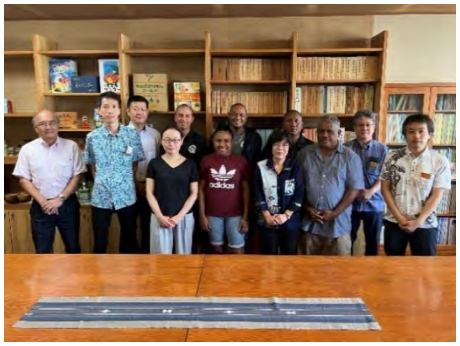


集合写真

③ 沖縄県農林水産部　前門尚美部長への表敬

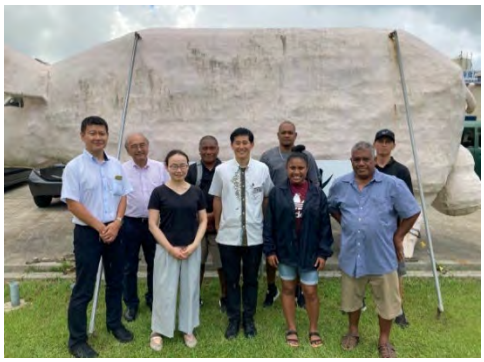
沖縄県庁を訪問し、沖縄県農林水産部 前門尚美 部長への表敬を行った。カシュガル・レングルバイ・パラオ農業・漁業・環境省畜産課長は、かつてパラオには多くの沖縄出身の方がいたことからパラオと沖縄は古くから深い関係にあり、その沖縄で研修できることに喜びを感じる旨述べた。

感謝の意を述べるレングルバイ課長


沖縄県農林水産部の皆様との集合写真

④ 沖縄ハム総合食品株式会社の訪問

アメリカから返還直後に設立した会社の歴史、沖縄ならではの豚肉料理などの総菜の販売についてなどの説明をうけ、ガラス窓の外からハム・ソーセージ工場の視察を行った。工場内でルートに沿った作業プロセスや機械の念入りな洗浄を見学した。


豚の像の前での集合写真

⑤ 株式会社鎌倉ハム富岡商会の訪問

工場内でハム・ソーセージの製造過程を視察した。同社は鎌倉にハム・ソーセージが伝わったころからの伝統的な製法である布巻ロースハムを製造しており、熟練した社員が布巻ロースハムを製造する様子の見学及びハムの試食を行った。

衛生服での工場の見学

布巻ハムの試食

⑥ 農林水産省　山口博之 輸出・国際局審議官への表敬

カシュガル・レングルバイ　パラオ農業・漁業・環境省畜産課長ほか、研修生５名が山口博之　農林水産省輸出・国際局審議官を表敬訪問した。山口審議官より、歓迎の意が述べられるとともに、引き続き「日パラオ農業協力に関する覚書」に基づき、パラオ畜産業の発展に向け、日本として取り組んでいく旨発言があり、パラオ側から今次訪日研修への感謝及び農林水産省の協力への感謝の意が伝えられた。

山口審議官への表敬

(7) 研修の感想など

- 日本の最新設備、そして規模の大きいと畜場、食鳥処理場で、食肉処理や衛生管理、検査を見学できて非常に有意義であった。
- 技術を習得するには、実習での研修が必要だと思う。また、日本で使用されている最新設備を自国で導入するとなると、多くの課題を解決する必要があると感じた。
- （食鳥処理場には）１～２週間ほどの実習の受入れを検討してもらえるとありがたい。
- ハム・ソーセージに使用する豚肉は、（沖縄ハム、鎌倉ハム富岡商会いずれも）輸入豚肉が多く使われていたことが意外であった。
- 鎌倉ハム富岡商会は国内市場で存在感があるが、事業拡大や海外展開は考えておらず、国内の一定の層をターゲットにしているところが興味深かった。
- 沖縄と同じく、パラオでも豚はすべての部位を食べる。沖縄のように豚のいろいろな部位を使った独特の料理があるといい。皮ごと食べるラフテーはパラオ人にも好まれると思う。
- 日本から供与される予定の機材の実物は見ていないが（研修時点）、（視察先で見た機材と）処理できる規模も小さいだろうし、写真で見ると研修先で使われるものとはかなり異なる。これらの機材を実際に使ってハム・ソーセージの製造を行い、洗浄などの衛生管理を含めた実技研修も必要と考える。

3. 「日パラオ農業協力の促進のためのタスクフォース」第3回会合の概要

(1) 「日パラオ農業協力の促進のためのタスクフォース」第３回会合の目的

2021 年に野上農林水産大臣（当時）及びウィップス・パラオ大統領との間で署名・締結した「日パラオ農業協力に関する覚書」に基づき、日本とパラオ間の農業分野における協力を強化し、パラオの食料安全保障の向上、農業分野での経済発展、さらには日パラオ両国の友好関係の深化に寄与することを目的として、「日パラオ農業協力の促進のためのタスクフォース（以下、タスクフォースという）」が設置された。

これまでに２回のタスクフォース会合を開催しており、第３回会合は、2024 年１月 17 日（水）に初めて日本での対面開催となった。

【参考】

・第１回会合　2021 年５月 21 日にオンライン開催。野上農林水産大臣とウィップス・パラオ共和国大統領、日パラオ農業協力に関する覚書を締結：農林水産省 (maff.go.jp)

・第２回会合、2022 年 10 月 24 日にパラオでの対面開催。「日パラオ農業協力促進のためのタスクフォース」の第２回会合を開催しました：農林水産省 (maff.go.jp)

・第３回会合、2024 年１月 17 日に日本での対面開催。「日パラオ農業協力促進のためのタスクフォース」の第３回会合を開催しました：農林水産省 (maff.go.jp)

(2) 農水産業関係機関への訪問等

2024 年１月 16 日～18 日に、タスクフォース会合の他にパラオ側招へい者に日本の農水産業を紹介するために関係機関の訪問、招へい者と専門家等との意見交換の機会を設けた。訪問先としては、パラオ側の要望等を考慮し、今後二国間の農業・水産分野等において事業展開や農業協力が本格的に推進され、日パラオ両国間の持続可能な発展に寄与することが期待できる以下の関係機関を選定した。

訪問先	概要
国際農林水産業研究センター（JIRCAS）	農林水産省所管の国立研究開発法人で、農業、林業、水産業の国際的な研究開発を行っている。持続可能な農業技術の開発と普及に力を入れており、国際社会での日本の貢献を目指している。
農業・食品産業技術総合研究機構（NARO）	農業食品分野の研究開発を行う、農林水産省所管の研究開発法人。科学技術イノベーションによる農業・食品産業の発展と、持続可能な食料生産の実現を目指している。
株式会社武蔵野種苗園	専業の種苗会社として、野菜の高品質な種子の開発、生産、販売を行っている。国内外の農家や園芸愛好家に対して、多様な品種の提供を通じて、農業と園芸文化の発展に貢献している。
株式会社プランテックス	植物工場や農業技術の開発に特化した企業。最新の植物科学と情報技術を駆使し、都市部での持続可能な食料生産システムの構築を目指している。
公益財団法人 海外漁業協力財団 （OFCF Japan））	水産資源の持続可能な利用に向けた国際的な協力体制を構築するとの基本理念のもと、我が国漁船の海外漁場の確保、安定的・持続的な食料供給の実現を目的として、我が国と漁業関係のある国・地域（関係沿岸国）や国際機関に

	対して技術協力と経済協力を一体的に実施し、関係沿岸国との互恵的協力関係の維持、我が国の水産外交政策に対する国際的な理解の醸成に努めている。
新生水産株式会社	水産業界における持続可能な資源管理と水産物の安定供給を目指し、水産加工品の開発に取り組んでいる。国内外の市場に向けて、安全で高品質な水産物を提供し、水産業の新たな可能性を追求している。

(3) 招へい者

1	Name/氏名	Mr. Victor, Steven ビクトール・スティーブン
	Position or Title/役職	Minister of Agriculture, Fisheries and Environment at Palau National Government パラオ共和国農業・水産・環境大臣
2	Name/氏名	Mr. Rengulbai, Kashgar レングルバイ・カシュガル
	Position or Title/役職	Chief, Division of Livestock 農務局 畜産課長
3	Name/氏名	Mr. Tellei, Trebkul Killian テレイ・トレブクル　キリアン
	Position or Title/役職	Chief, Horticultural Division, Division of Livestock 農務局園芸作物課長

(4) 招へいスケジュール

日	時間	スケジュール
1月15日 （月）	02:05 05:05	コロール発（UA158） グアム着
	12:40 15:30	グアム発（UA196） 成田着 東京泊
1月16日 （火）	9:00 -10:00 10:30 -12:30	国際農林水産業研究センター（JIRCAS）訪問 ・双方代表挨拶、JIRCAS紹介 ・パラオでの研究実績 ・意見交換 農業・食品産業技術総合研究機構（NARO）訪問 ・NARO概要紹介 ・ジーンバンク見学 ・食と農の科学館見学
	14:30 -16:30	株式会社武蔵野種苗園訪問 ・会社紹介、新治育種農場での育種研究の状況 ・育種のターゲット等の説明 ・海外事業の状況、育種のターゲット等の説明 ・圃場、研究室、温室各サイト見学 東京泊
1月17日 （水）	10:00 -10:30 11:15 -12:00	株式会社プランテックス訪問 ・会社紹介（人工光型植物工場による野菜生産等） ・植物工場見学 公益財団法人 海外漁業協力財団（OFCF Japan）表敬訪問
	13:15 -13:45 14:00 -16:30 16:15 -17:45	鈴木憲和農林水産副大臣表敬 タスクフォース会合 農林水産省との意見交換会 東京泊
1月18日 （木）	9:00 -11:00	新生水産株式会社訪問 ・加工工場見学 ・マグロの商品ラインナップ ・巻き寿司調理、日本文化体験 ・パラオからの今後のマグロ輸出等
	17:00 21:45 23:40	成田発（UA197） グアム着 グアム発（UA157）
1月19日 （金）	00:50	コロール着

(5) タスクフォース会合

第３回タスクフォース会合が、2024 年 1 月 17 日（水）に農林水産省で開催された。会合には、日本側から折笠弘維駐パラオ共和国日本国大使、山口博之農林水産省輸出・国際局審議官

のほか、沖縄県、JICA など、パラオ共和国側からスティーブン・ビクトル農業・漁業・環境大臣、クリスチャン・エピソン・ニコレスク駐日パラオ共和国大使館公使参事官、パラオ短期大学、コロール州政府などの関係者が出席した。

会合では、折笠弘維駐パラオ共和国日本国大使、スティーブン・ビクトル農業・漁業・環境大臣による開会挨拶の後、日パラオ双方から畜産人材の育成やミバエ防除対策等のこれまでの農業協力の取組状況の報告、今後の農業協力に関する提案・意見交換が行われるとともに、引き続きタスクフォース会合を定期的に開催し、農業協力の促進に向けて議論を継続していくことで合意した。

時間		プログラム
14:00	14:10	1. 開会
14:10	14:15	2. 出席者の紹介
14:15	14:45	3. 日本側からの説明 (1) 農林水産省の取組 (2) 在パラオ日本国大使館の取組 (3) JICA の取組 (4) 沖縄県の取組 (5) 質疑応答等、意見交換
14:45	15:15	4. パラオ側からの説明 (1) MAFE + Taiwan Technical Mission からの説明 (2) Palau Community College Cooperative Research & Extension (PCC-CRE) からの説明 (3) Koror State Government Recycle Center からの説明 (4) 質疑応答、意見交換
15:15	15:35	5. 日本での畜産研修を踏まえた今後のパラオ畜産業の展開等 (1) アイ・シー・ネット株式会社による研修報告 (2) パラオ側研修生による提言 (3) 意見交換
15:35	15:55	6. その他
15:55	16:00	7. 閉会

【タスクフォース開催風景】

会合の様子

会合の様子

ビクトル大臣の発言の様子

山口審議官の発言の様子

パラオ側の発表

集合写真

(6) 鈴木憲和 農林水産副大臣への表敬の概要

スティーブン・ビクトル農業・漁業・環境大臣による鈴木憲和農林水産副大臣への表敬が行われ、引き続き日パラオ両国が連携し、農業協力の促進のために取り組んでいくことが確認されました。

鈴木憲和 農林水産副大臣と握手するスティーブン・ビクトル農業・漁業・環境大臣

(7) 視察の概要等

① 国際農林業研究センター（JIRCAS）の訪問

JIRCAS より、アジア・太平洋島嶼国の水利用制限地域における資源保全管理技術プロジェクトの一環として、パラオで実施された技術開発成果が紹介された。ビクトル大臣からはこれらの成果が現地の社会実装に繋がっていること、また、太平洋諸島嶼国における研究継続の期待が述べられた。

大前所長による「パラオでの研究実績」の発表

集合写真

② 農業・食品産業技術総合研究機構（NARO）の訪問

ジーンバンクの活動の説明後、種子管理が自動化されているジーンバンク種子貯蔵庫、食と農の科学館を視察した。また、日本製の農業技術の紹介があった。

種子貯蔵室見学の様子

集合写真

③ 株式会社武蔵野種苗園の訪問

育種研究や海外事業の紹介後、圃場、研究室、温室等を視察した。パラオでは温室野菜の生産が決まっていることから、視察団のビニールハウスへの関心は高かった。

ビニールハウスの視察

温室でトマトを試食するビクトル大臣

④ 株式会社プランテックスの訪問

プランテックス社が展開する大型野菜工場（プラントリー）の説明後、パラオで栽培可能な野菜の種類や規模について質問がなされ、パラオへの導入可能性について意見交換が行われた。

会社概要説明等

野菜工場視察

⑤ 新生水産株式会社の訪問

新生水産の事業紹介、また海外拠点の水産加工の協力工場についての説明がされ、パラオからマグロを輸入する可能性やその質等について意見交換が行われた。その後、本社敷地内にある水産加工工場を視察し、同社が小売店に卸しているマグロやイカの刺身、ネギトロ等を試食した。

会社概要の説明

試食（マグロ等）